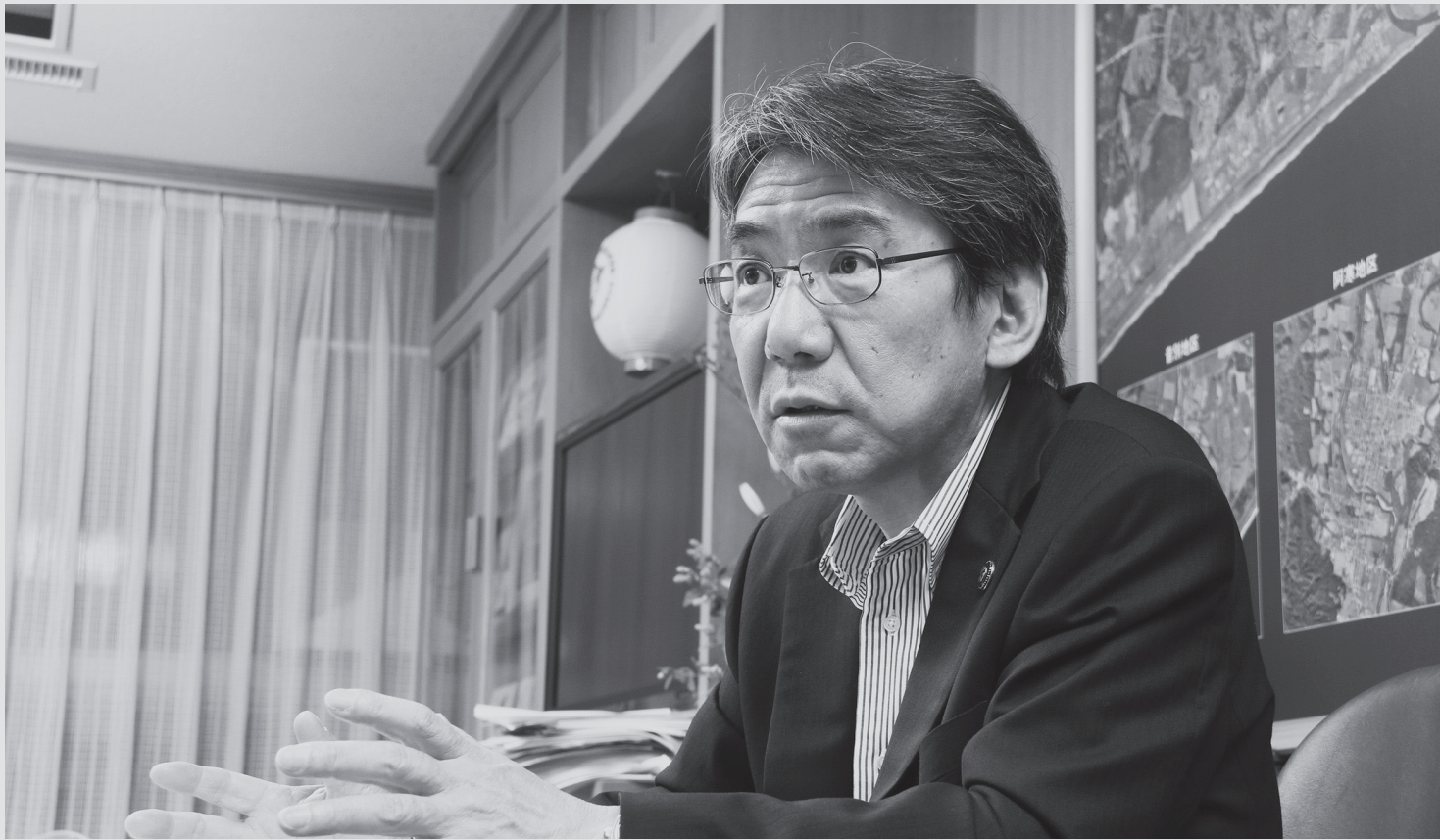


えびな大也

後援会通信 No.⑦

えびな大也後援会事務所
〒085-0847 釧路市大町1-1-10大町ビル3階
電話:0154-44-4500 FAX:0154-44-4505
E-mail:ebina@marimo.or.jp
発行/えびな大也後援会事務所



道東道白糠インターチェンジ 平成27年3月29日開通

いよいよ27年度阿寒インターチェンジが開通します。



道東自動車道の浦幌インターチェンジから白糠インターチェンジが開通。今回の開通により、道東道は道央自動車道千歳恵庭ジャンクションから白糠インターチェンジまでが一本の道でつながりました。これにより、多くの観光客が釧路を訪れることが期待され道央圏との直結による物流の効率化で、人的交流や経済面など、さまざまな分野の活性化につながるものです。そして、いよいよ27年度、阿寒インターチェンジまでの区間が開通予定です。千歳、帯広、釧路と空港が位置する都



道東道開通予定図

市をつなぐ、高速道路が完成することになります。

阿寒インターチェンジ開通に向けた市の取り組みとして阿寒地域の商工業者や農業関係者、市民団体が構成された「阿寒丹頂の里プロジェクト委員会」と連携し、道内外観光客の誘致活動などをはじめ、施設機能の有効活用を主眼に官民協働で行なっています。

道東道の開通を契機に人の流れを拡大し、地域の活性化につなげ、魅力を発信しつづける努力をしています。

コンパクトシティーをめざして。

人口減少に立ち向かうまちづくり「食い止める」「補完する」「対応する」

日本の急速な少子高齢化にむけ、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。

これを受け釧路市では、現状と将来の展望をふまえ、今後5年間の目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、まちづくりを進めています。

私が市長に就任させていただいた時「都市経営」というのを打ち出し、①財政の健全化、②市役所改革、③政策プランの3つをきっかけ、政策プランの中を更に分け、域内循環させる地域経済、人材の育成と雇用、安心して暮らせる都市づくり、東北海道をつなぐ戦略拠点都市として推進して参りました。

子育て支援の体制を確保し、就労支援を積極的に行い、人口減少を“食い止める”。また、スポーツ合宿の誘致や長期滞在への取り組み、高速道路開通による物的、人的交流を促進する。つまり、補完する。

これらをふまえて、対応する“コンパクトなまちづくりを進めます。コンパクトなまちづくりは市街地の縮小を意味するものではありません。

市街地をこれ以上広げないことを原則とし、その中の構造を機能集約型に転換させていくという事です。釧路市では都心部を含め、いくつかの地区を拠点とし、そのエリア内に商業施設、病院、金融機関などを設け、公共交通で結び、効率的なまちを目指していきます。



釧路市・バーナビー市姉妹都市提携50周年公式訪問報告



姉妹都市提携50周年を記念してカナダのバーナビー市を公式訪問しました。釧路市出身で観光大使でもあるジャズピアニスト木原健太郎さんの記念コンサートも開催。新たな50年へむけ友好の絆を深めることになりました。

釧路市とはほぼ同緯度に位置するバーナビー市は、太平洋をはさんで近距離にあるカナダ西海岸沿いの街で、都市の規模や形態が類似していることから、昭和38年に駐日カナダ大使の仲介を受けたバーナビー市長から姉妹都市提携の話が持ち込まれました。バーナビー市の公式な招待を受け、昭和40年9月に釧路市長がバーナビー市を訪問。その際にバーナビー市議会で姉妹都市提携盟約書を交換し、姉妹都市の縁組をしました。





2017年完成予想図

北大通3丁目、4丁目 再開発複合ビル16年秋にも 着工



北大通



防災センター完成

平成25年10月1日から工事を進めてきた(仮称)防災まちづくり拠点施設が今年3月1日に完成。名称は「釧路市役所防災庁舎」となり、始動しました。



旧くしろデパートが立つ3丁目とバステルビルなどがある4丁目の2区画に複合ビルを建設

釧路中心部に明るい光がさし、人が集い、買物客であふれる街になること。
中心市街地の活性化起爆剤になってほしいしまた、あのにぎわいが戻ってくることを信じていたいと思います。
シャッター街に希望の光が見えてきます。

☆北大通3丁目・4丁目
再開発複合ビル2016年秋にも着工
人がまばらで、なおかつ買物、観光する場がないと言われていた北大通が今、変ろうとしている。
北大通3丁目に建てる分譲マンション棟は、13階建て、1階を商業施設、2階～13階に60戸の住宅を配置。
4丁目の有料老人ホーム棟は6階、1階を商業施設。2階を医療モール、3階～6階を有料老人ホームとします。
2016年6月～7月の着工、2017年秋の竣工を目指し、いよいよ動き出します。



再開発始動

☆市民の安全を確保する施設
2階と3階の間に道内の新築公共施設で初の中間免震構造を採用し、耐震性に優れた防災庁舎は、津波発生時の一時避難施設として1700人が3日間避難生活ができるよう水、食料、電気、汚水、雑排水に対応できる施設となっております。また、エネルギー源は電気、ガス、石油と多重化してリスクを分散し、暖房は電気とガスの2系統の運転が可能となります。
避難が長期化した場合の対応として、シャワー室、浴室を設けたほか、避難所内のプライバシー確保にも配慮しています。



免震装置

1階駐車場



避難者用シャワー室



多機能トイレ

普段においても、各階ホールで防災資料などを展示し、市民の皆さんの防災意識の向上を図っています。

☆窓口業務のワンストップサービスを目指します

市役所防災庁舎が完成とともに、本庁舎の各課配置も大きく変更となりました。

戸籍や国保、医療費助成、介護、福祉、児童手当、健康相談などの窓口業務が防災庁舎に移転。

窓口やカウンターは業務ごとに色分けをし、利用する皆さんに分かりやすい配置になっていると共に、地元産のカラマツ材を使用しているのも温もりがあり、安らぎが感じられます。各階には、多機能トイレを設置し、オストメイト洗浄機器を整備すると共に、ペーパーチェアなども設置、2階から5階には給湯設備の整った授乳室も設けています。

また、これまで本庁で行なってきた夜間、休日等の閉庁時における戸籍等の届出窓口も防災庁舎1階で行なっています。

利便性を重視し、市民の皆さんが安全、安心に暮らせるまちを目指していきます。

図書館を道銀ビルに移転 中心街のにぎわい再生へ

市立釧路図書館は、平成23年度に実施した耐震診断で「早急に補強が必要」とされ、改築か移転新築か財源を含め議論となってきましたが、中心市街地の北大通地区に移転することが決まりました。

移転先は、北海道銀行が中核テナントとなる新釧路道銀ビル(北大通10丁目 ベスト電器跡地)の中高層階に入居します。

公立図書館と銀行店舗が同ビルに併設するのは珍しいケースです。図書館が中心市街地になることにより、たくさんの人々が集い、にぎわいにつながることを期待します。



現市立釧路図書館



釧路道銀ビル建設予定地